

クレチン症早期診断における、血中サイログロブリンの有用性について

北川照男・松浦幹夫
(日本大学医学部小児科)

研究目的

血中サイログロブリン(以後Tgと略)は、T₃T₄のプロホルモンであり、甲状腺癌パセドウ病などで高値を示す他、Czernichow等は、無甲状腺と異所性甲状腺あるいは低形性甲状腺との鑑別にTgが有用であると報告している。血中Tgは、甲状腺刺激物質やTSHに依存して変動することが知られており、TSH高値を主訴として外来受診した児の早期診断に、血中Tgが有用であるか否か検討した。

研究方法

TSH高値を主訴に外来受診した異所性甲状腺3例、持続性高TSH血症4例、一過性高TSH血症2例、病型不明3例、と無甲状腺1例の計13例に対して、血中T₃、T₄、TSH、Tgを測定した。

Tgの測定は、CISのimmunoradiometric methodによるキットを使用した。

研究結果

正常児の血中レベル(図-1)では、乳児期のTg 45.5 ng/ml (range $9.4 \sim 95 \text{ ng/ml}$) と高値で変動巾が大きく、以後2~9歳 $18.6 + 10.0 \text{ ng/ml}$ 、10~15歳で $11.0 + 4.8 \text{ ng/ml}$ と漸減して成人値に近づく傾向が認められた(図-1)。

各病型におけるTgレベル(図-2)では、未治療のパセドウ病や、異所性甲状腺の症例で、血中Tg値は著しい高値が認められた。一方、無甲状腺の症例では 3 ng/ml 以下と低値を示し、一過性高TSH血症や、いわゆる持続性高TSH血症の症例では、正常域高値にとどまり、各病型間の鑑別に有用とおもわれた。

また、血中TgはTSH依存して変動するとされているが、血中Tg/TSH比で各病型を比較すると、異所性甲状腺、持続性高TSH血症は低値を示す傾向が認められた。

考察

甲状腺シンチは、病型診断に有効であるが乳幼児においては、被曝の問題もあり実施しがたい場合もある。一方、血中Tg値は、無甲状腺と他の病型との鑑別に有用であるとともに、持続性にTSH高値を示す例において、甲状腺の分泌予備能検査として、予後を推測する指標と

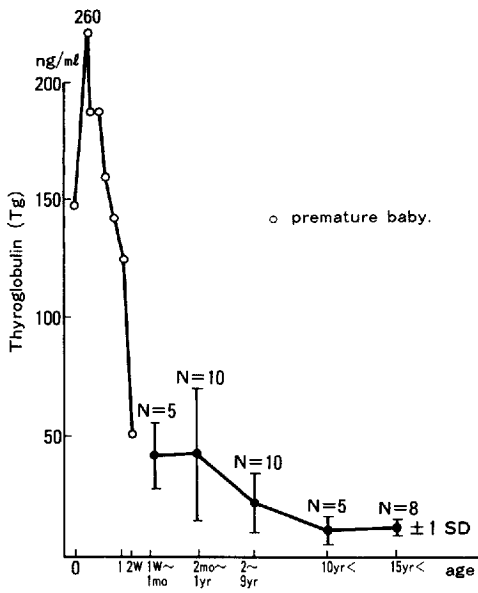


図 - 1

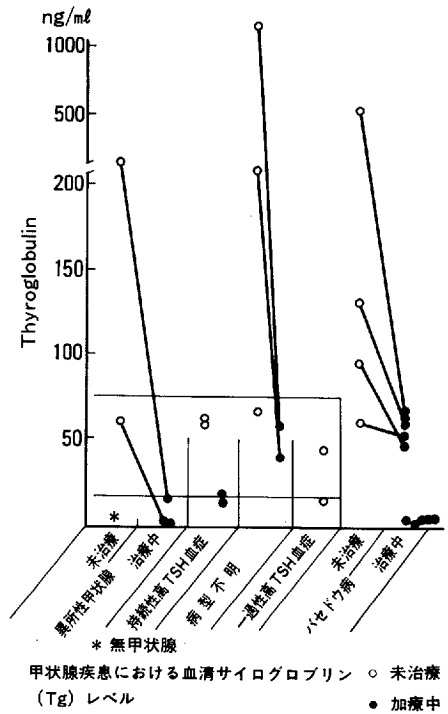


図 - 2

なる可能性が認められた。

文 献

1) P. Czernichow et al

Plasma thyroglobulin measurements help determine the type defect in congenital hypothyroidism. *J. Clin. Endocrinol. Metab.* 56 : 242, 1983

2) Van Herle et al

Control of thyroglobulin synthesis and secretion (second of two parts)

N. Engl. J. Med. 301 : 307, 1979



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



研究目的

血中サイログロブリン(以後 Tg と略)は, T3T4 のプロホルモンであり, 甲状腺癌バセドウ病などで高値を示す他, Czernichow 等は, 無甲状腺と異所性甲状腺あるいは低形性甲状腺との鑑別に Tg が有用であると報告している。血中 Tg は, 甲状腺刺激物質や TSH に依存して変動することが知られており, TSH 高値を主訴として外来受診した児の早期診断に, 血中 Tg が有用であるか否か検討した。